

令和5年度第4回 三島市高齢者保健福祉及び介護保険運営懇話会会議録

1 開催日時

令和6年1月18日（木） 午後2時00分から午後2時35分まで

2 開催場所

三島市役所本館2階 第2会議室

3 出席者の氏名

(1) 懇話会委員

吉富委員、三宅委員、近藤委員、藤江委員、土屋委員、榎澤委員、小島委員、
米山委員、鈴木委員、美尾委員、堀井委員、宮本委員、岡田委員、三浦委員、
三沢委員、今野委員、原田委員、坂井委員、青田委員

(2) 事務局職員

水口社会福祉部長

佐野健康推進部長

(福祉総務課)

高田課長、肥後課長補佐（福祉総務係長）、中村副主任（福祉総務係）

(健康づくり課)

浅見課長

(地域包括ケア推進課)

石井課長、木村副参事（いきがい推進係長）、伊藤技術主幹（地域包括支援係長）

(介護保険課)

鈴木課長、松田課長補佐（介護保険係長）、石橋係長（介護認定係）、

一言副主任（介護保険係）

4 会議の公開・非公開

公開

5 傍聴人

0人

6 懇話会内容

(1) 社会福祉部長あいさつ

(2) 協議事項

① 第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画（案）について

【事務局説明】

【質疑・回答】

(委員)

介護保険料が上がるということだと思いますが、第1段階から第3段階の人は全体の何パーセントくらいいらっしゃるのでしょうか。

(事務局)

3段階合計して29.4パーセントです。

(委員)

第4段階、第5段階の人は乗率が変わらないとのことですが、第6段階以降(の乗率)が上がるということでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(委員)

49ページについて、高齢者実態調査結果について記載がありますが、4番と6番については質問項目がなく、ただ数値を記載しているのではないかと思います。今回は、これで仕方ないと思いますが、市民の声を反映できている部分、できていない部分を明確にして表すことが必要だと思います。市民の声を十分に反映させるという内容にしていきたい。

(事務局)

ご指摘がありました通り、こちらの数値は、活動資料から出している数値となりますので、実態調査からの反映ではありません。市民の声を反映できるように今回は進めていきたいと思っております。

(委員)

数値からのみでなく、市民がそのことについてどの程度満足しているか、何を不満に思っているかを反映していただきたい。

(事務局)

補足ですが、前期計画を作成する際に、市民の声だけではなく、数値を出してほしいというご意見をいただきました。そのため、認知症サポーター養成者数の累計は、上位計画の総合計画の指標ともなっている大きな目標でもあったため、数値化にして施策の推進を明瞭化したものとなっております。また、次期計画の際に検討していきたいと思っております。

(委員)

数値結果は十分必要であることは分かっています。それと併せて市民の声をしっかり反映したものを出すことが必要だと思います。両方反映させるような指標を用いて評価するべきではないかという意見です。

(事務局)

ありがとうございます。実態調査の項目を検討する時点から、数値と併せて、市民の声も反映できるような質問項目も検討していきたいと考えております。

(委員)

125ページの介護保険サービス給付費の推計の説明で、令和22年の介護給費計が100億を超えているということですが、16年後に財源が賅えるのでしょうか。また、高齢者が増えているため保険料が上がるのは分かりますが、今回の

介護保険料の設定条件としてあまり変化がないと思います。どこの部分で上がっているのでしょうか。

(事務局)

設定条件自体は大きく変わっていませんが、基準額の金額が上がりますので、介護保険料の金額は上がっている状況です。

(事務局)

16年後に100億を賄えるのかということですが、128ページに介護保険の財源という資料があります。こちらを見ていただくと、市の負担分が、12.5%、19.25%と記載があります。当然給付費などが上がりますと、それだけ市の財源も市が負担する額も上がっていくということになるかと思います。介護保険料の分からご負担いただく部分もお願いしていただかなければならないと思います。

また、国では、介護保険のサービスが1割で使える方がかなり多いですが、2割に移行する方が増えていくということで、使われる方からいただくような仕組みも考えているということですので、それらの国の動きを見ながら、できる限り介護予防に力を入れて、給付費を抑えるように努力していきたいと思えます。

② パブリックコメントの実施結果について

【事務局説明】

【質疑・回答】 特になし

7 閉会